

研究テーマ：単語の意味、音の定着を図る

所属 高知工業高等学校

氏名 中村美穂

RG SH2

1. 研究の背景

高知工業高校の教育課程では、英語を1年次に2単位、2年次に2単位と分割で履修する。3年次にはオーラルコミュニケーションを履修することになっている。

英語に苦手意識を持っている生徒が大変多い。しかし、大変元気がよく音読練習や発表に積極的に参加できる。しかし、自分で調べない、自分で勉強はしたくない、授業で理解したいと考える生徒がほとんどであり、2単位では時間に限りがあるので予習復習が必須であるにも関わらずそれらをしていく生徒はほとんどいない。

このようなことから、仕方なく授業の準備部分である単語調べや意味の確認を授業中に取り入れることにした。

2. リサーチクエスト

生徒が英和辞書を使いこなせるようになる。正しい意味を選択できることは勿論、用法や文法などを参考に教科書中の本文が読めるようになるにはどうすればよいか。

3. 予備調査

(ア) 授業観察の結果(別紙参照)

(イ) 英語力を示すデータ(別紙参照)

(ウ) 4月の初めに辞書の早引きを2回実施。かなり引くスピードにばらつきがあり、1単語調べるのに1分以上かかる生徒がクラスの半分以上いる。単語調べの宿題を課しても定着しないのは、アルファベットの順序が頭に入っていないことと、書く練習をしていないため綴りが長くなると何度もプリントと辞書を見比べないと調べることができないようだ。

4. 仮説の設定

こちらが誘導して正しい意味と音を反復練習すれば、単語の定着が図れるのではないだろうか。そして、教科書の本文の内容も抵抗なく読みこなすことが出来るのではないか。

5. 計画の実践

以前は、いきなり単語テストをすると反発が多かったため、選択肢をもうけた単語テストを実施していたが、大分慣れてきたため選択肢をはずし、「単語テスト」という名目ではなく「単語確認プリント」に変更し、いちいち点数をチェックせず、生徒にファイルに綴じさせ、定期テストごとに点検するようにした。

また、音読作文を実施した。夏のセミナーで千田先生が紹介してくださったものをそのまま真似してみた。英語を言いながら書くということに最初は不快感を示す生徒もいたが、音楽をかけてあまり回りの音が気にならないようにしてやると、かえって楽しそうであった。また、スペルも覚えやすい

と感想を漏らす生徒も何人かいた。

授業数が少ないため、間が空くとお互いどのくらい前回の単語を覚えているか確認させるのに、ペアワークを取り入れた。先生役と生徒役を決めて、問題の出しあいっこをするという極めて原始的な方法ではあるが、これがあるため、全体での確認時に集中できるようになったと思われる。

6．実践の結果

単語テストや定期テストに多少は効果がみられる。(別紙参照)

7．結果の検証

単語は調べてこないと授業中に困るという意識はなんとか確立できたようだ。ただし、やはり自分で調べることが困難な生徒もいるし、全く取り組みが出来ない生徒がいることは残念で仕方がない。また、2学期から単語調べプリントに品詞を書かす欄を設けてみたが、あまりそれに意味を持たすことが出来なかった。文法なども辞書を使って授業中一斉に調べてみた。まだまだ辞書を自分で使いこなすというところまではもっていけなかったが、親しみを持ってもらう事は出来たようだ。

8．成果と今後の課題

(成果) とにかく、アクションリサーチに出会えたことは大きな成果である。問題点や改善点が明らかになるため、課題の解決に取り組みやすかった。今までと同じようなことはやってきたがそれぞれ点でしかなかったものが、今年は線になった。よかった。

(課題) 1にも2にも、目標設定が大切だと実感した。最初はアクションリサーチをどのように進めたらよいのか皆目検討がつかず、今、振り返ってみるととても曖昧な目標だったと思う。

また、2学期になって実践し始めたことを4月に行なっていればよかったと思うこともあった。例えば、単語を声に出して覚えること。最初はこちらが勢いをつけてあげる必要があるだろうが、それさえしてあげれば後はこちらは微調整をするのみで、生徒自身が自ら進んでいけたらと思う。

(感想) 授業数が少ない中で様々な葛藤があるが、特に悩んだのは今はテスト範囲(シラバス)にあわせて授業をしているが、授業にあわせてテストを作れないかということである。授業数にどれだけ差があっても共通テストなので苦労する場面が何度となくあった。

とにかく、アクションリサーチを通して道筋が見えるようになったのでこれからは少し余裕が持てるかな、と期待している。ただ今年はアクションリサーチの方法を学んだだけなので、来年からが勝負だと思っている。